

## 第36期小田原市図書館協議会 第1回協議会 会議録

日 時 令和7年3月25日(火)14時から

場 所 小田原市立中央図書館2階 研修室

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 副部長あいさつ
- 4 委員自己紹介・職員紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 委員長・副委員長あいさつ
- 7 報告事項

### (1)調べる学習コンクールの結果について【資料1】

○事務局説明(野地副館長)

○質疑応答

〔藤本委員〕 今年、昨年と2回程調べる学習コンクールの審査員として参加させていただいたが、本当に素晴らしい作品ばかりで1つの資料だけではなくいくつかの資料を見ながらまとめられていて、その作品一つ一つに子どもらしい関心・興味というものが生かされていてとても良いと思った。入賞された作品の中に調べる学習の講座をきっかけにその後、自分で調べてというお子さんもいたのではないかなと思うので、繋がりという点でも良いと思った。

〔野口委員長〕 審査委員の中には、竹縄館長、青柳総括責任者にも入っていただいたがいかがだったか。

〔竹縄館長〕 子供の作品を評価する機会があまりなかったもので、なにをもって判断するのか戸惑いがあったが、素直に自分にとってこれが知れて良かったと思えるものを、できるだけ評価してあげられるように考えた。  
それと同時に、将来の図書館ユーザーを育てるというような趣旨の事業でもあるので、できるだけ広めて開催して参りたいという感想を持ったところである。

〔青柳総括責任者〕 私も3回目になるが、いつも作品の出来に驚ろかされる。市長賞をとった作品はほぼ満場一致であったと思う。どれもいい作品ばかりで、竹縄館長も仰っていたが、非常に審査するのが難しい。他の作品は得票が分かれていたということもあって非常に難しかったが、私自身も審査に参加していて非常に勉強になることも多いので、また機会があれば審査に参加したいと思う。

〔藤本委員〕 作品が素晴らしく、数も多いので、自分としては審査時間内にすべてを読み込むという事が難しいと思っている。しっかり読み込んで、子どもがどんな風に思考を広げながら調べを進めているのかという所もしっかり見ていきたいので、二次審査から参加させていただくということを考えていただけたらいいと思う。端折って見るような形になってしまったので、審査方法を見直していただければと思う。

- 〔野口委員長〕 藤本委員は審査プロセスについて、可能であればその辺を見直していただきたいという御意見であるが、現段階でも、第一次選考したものを我々が審査をするというプロセスにはなっている。だが、もう少し第一次選考を充実させてほしいという御要望である。
- 〔藤本委員〕 あるいは、審査時間をもう少しとっていただきたい。ある程度見て終わりにしておかないと見終わらない状況である。
- 〔野口委員長〕 私は第1回から審査委員長を務めているが、年々レベルアップしているので、子どもたちの力はすごいと思う。賞を取られた子がまた応募してくるので、そういう意味でも更にレベルアップしているところもあり、それはいいことであるし、続いてほしいところであるが、藤本委員が仰っていたように、中身が濃くなればなるほど、1作品あたりに審査時間を要してしまうところが嬉しい意味での課題だと感じるところである。事務局の方でご検討いただければと思う。
- 〔加地委員〕 基礎講座を娘が受けた。自分で調べられなかった部分を、助けていただいた。毎年応募されてレベルアップしている作品が多い中での選考なので、夏休みの講座で初めて調べ学習をしようと思った子はここに残らないというか、賞を取っている子は春とか早い段階でテーマを決めて長期でやっている子ばかりなので、基礎講座が夏休みよりもっと前の段階であると、色んな子が調べ学習に時間をかけて出来るかと思う。
- 〔竹縄館長〕 必ずしも、コンクールの予行的なものというふうに捉える必要もないと考えており、あくまで図書館を活用してもらうための施策になる。夏休みに限る必要があるのか、検討の余地はあると思う、その辺も踏まえて考えさせていただく。

## (2)令和6年度主要事業報告について【資料2】

### ○事務局説明(野地副館長)

#### ○質疑応答

- 〔北河副委員長〕 子どものイベントがとても考えられていて良いと思った。いつも広報でイベントを知るの、見るのが楽しみである。今月はこんなイベントをやるんだと、参加したいと思うが時間的に難しく1度も参加したことがない。平日の夜だと大人も参加できると思う。サラリーマンが会社終わった時間から参加できるのではないか。今まで、閉館の時間以降になにかイベントはされていたか。
- 〔青柳統括責任者〕 土曜日、日曜日は18時閉館なので、それ以降の時間も使えないかということで、18時半にサックス演奏会や図書館全体を使った演劇会、つい最近では図書館脱出ゲームを閉館後に開催したが、平日ではない。平日は21時まで開館しているので、講座等も検討していけたらと思う。
- 〔野口委員長〕 図書館全体を使った演劇会とはどんなものか。
- 〔青柳統括責任者〕 小田原で活動をしている劇団があり、図書館を舞台にしたオリジナルの脚本で演劇をしていただいた。上演場所が多目的スペースとエントランス中心だったので、観ている方には演劇に合わせて館内を移動して観てもらった。
- 〔野口委員長〕 ワクワクするイベントである。他に御意見ある方はいらっしゃるか。
- 〔馬見塚委員〕 感想と意見であるが、どちらの図書館も年間を通して毎月のように様々な事業

を展開し、充実していると思った。私は仕事で、認定絵本土の育成に携わっている。認定絵本土というのは、国立青少年教育振興機構、文部科学省の管轄である。そこが発行する称号だが、それを受けた後、3年間の実務経験を積むと絵本専門士という資格を得られる。巷には様々な絵本に関係する資格があるが、この絵本専門士・認定絵本土が、私がみる中で国が1番力を入れている資格と感じる。小田原を始め、県内にも絵本専門士がいるので、使っていただければと思う。

同じ人たちに絵本関係をお願いしているより、様々な人たちにそういった機会があると全体の底上げがされていくので、そういった方にも目を向けてあげたらいいと思う。

〔野口委員長〕 絵本専門士の制度もちょうど10年になる。全国で多くの方がその資格をお持ちであるが、ほとんどはボランティアとして活動していて、各地域で図書館と繋がって活動をしている方もいれば、なかなか繋がりのない中で活動している方もいるので、是非図書館としてもそういった方と繋がっていくことで、特に絵本関係のイベントは広がりが出て来る可能性はあると思う。

〔星崎委員〕 質問と意見であるが、私が以前参加してすごく為になったイベントがある。こちらで開催していた全8回くらいに渡る、子供向けの読み聞かせの本の選び方から読み方などを1から教えてくれる講座があり、それに参加してから、子どものボランティアにも登録して、読み聞かせをしてすごく有意義であった。その後はしばらくあったと思うが、今(資料を)見てみると、なくなっていたので、なくなった理由があれば教えてほしい。また機会があれば開催してもらえると、学校での読み聞かせも保護者が自信を持って取り組めるのではないかと思った。

〔竹縄館長〕 【資料2】1頁目にある図書館活用講座「新生活におすすめの本を紹介します」は絵本講師として活動されている上甲知子さんを講師とした講座である。上甲さんは以前から図書館としてお世話になっているので、そういった事業を継続して少し規模は小さいものではあったかと思うが、引き続き子ども読書活動推進に対応する行事を充実させていきたいと考えている。

### (3)令和7年度図書館事業及び予算の概要について【資料3】

#### ○事務局説明(石塚副館長)

#### ○質疑応答

〔北河副委員長〕 デジタル図書館事業について、今デジタル図書はすごくクローズアップされているが、予算的には昨年と変わらない。小田原としては、デジタル図書館に力をいれようと思っていないのか。

〔竹縄館長〕 図書資料に関して力を入れているわけではないわけではない。デジタル書籍については様々な商品のタイプがあり、永久に利用できるものもあれば、貸出数に制限のあるもの、読み放題のような同時接続可能なものなど、色々組み合わせがある。資料の選定については、試行錯誤している部分もある。より効率的な資料選定のあり方を取捨選択しながらやっている。もう少し増やしたいと思い、予算要求はしているところであるが全体の財政事情で決まってくる部分では

- あるので、今後もそういった働きかけは力をいれて参りたいと思う。
- 〔馬見塚委員〕 中央図書館管理運営事業が1億2700万円減少しているが、主に修繕費が昨年度かかっていたと思うが、それ以外に特に大きなものはないか。直接的な図書館サービス、図書の購入費が減るといったことはあるか。
- 〔竹縄館長〕 図書購入費に影響を及ぼしているということはない。あくまで、一億円以上の空調機器オーバーホールの工事が令和7年度はなくなったというのが、大きなファクターと思っていただいて差し支えない。
- 〔野口委員長〕 毎年度、資料を拝見していて旧保健福祉事務所跡地の活用が気になるところであるが、令和8年度以降の総合計画の中での位置づけを考えているところではあると思うが、図書館として令和7年度には、こんなことをというような提案は検討するのか。
- 〔竹縄館長〕 現在、アーバンデザインセンター小田原という、都市デザインをする組織が小田原市に設置されている。そちらと地元の自治会が、このようなものを作ったらどうかという意見交換をなされている。地元の意向も注視しながら検討していかなければいけないと思う。現在、模型を作成しているという情報が入っていて、まだ私も拝見していないので、こういった形で反映できるのか、あるいは難しいのか、そういったところも含めて考えていくところである。
- 〔野口委員長〕 そこに図書館とか小田原文学館がどう入る可能性があるのかということも含めて今後、といったところであるかと思う。
- 〔竹縄館長〕 そもそも、どうして図書館が所管しているかという、都市計画法制度の中で第1種低層住居専用地域ということであまり高層な建物は建てられず、また、建てられる建築物も限定されるが、図書館は建設できるという規定がある。そういったきっかけがあって図書館で所管してきた経緯がある。その後、東口図書館も開館しているので、初期の目的からは少し乖離があるのかなというところである。そうは言っても、神奈川県から取得した土地であり、文化生涯学習用地として利用することを条件に取得した経緯があるので、現時点では図書館において検討をすすめている。今後の方向性としては、図書館の手から離れていくことも考えられる。

#### (4)小田原市立小田原駅東口図書館及びおだぴ子育て支援センターの指定管理者の指定について【資料4】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

・特になし

#### 8. その他

(1)第36期図書館協議会2年間の開催スケジュールについて【別紙2】3頁

○事務局説明(石塚副館長)

(2)委員からの質問

○質疑応答①

- 〔加地委員〕 図書館概況22ページの、電子図書館についてお伺いしたい。利用状況について、ログイン数と貸出冊数の記載はあるが、利用者数を伺いたい。
- 〔植田副館長〕 閲覧の実人数は令和5年度で4258人。令和6年度の10月末までの実績で、1560人。年齢層は、30～40代が多いのと、学校連携を始めているので、学校の生徒が7～8割利用している。
- 〔野口委員長〕 学校連携に関して、各学校の活用状況に差はあるのか。
- 〔植田副館長〕 学校毎の統計はとれないので分からない。
- 〔野口委員長〕 学校毎にID配布じゃなく、生徒個人に配布しているからか。
- 〔植田副館長〕 そうである。
- 〔野口委員長〕 熱心に働きかけている学校もあれば、個人にお任せしている学校もあると思うので、学校の働きかけによっても差はあるかと思う。

## ○質疑応答②

- 〔西田委員〕 学校の図書ボランティアに月1回行かせていただき、司書の方や児童と話している中で、お伺いしたいことがある。図書館で貸し出しされている本にバーコードが貼られているが、貸し出しの際こちらの図書館ではバーコードを使って管理されていると思うが、小学校では手書きで管理している。低学年は何桁もある数字を書き写すのが大変だと聞いている。行く行くはバーコードで管理する予定があるのか伺いたい。
- 〔竹縄館長〕 学校図書館の資料については学校教育費の中で賄っている部分であり、基本的な考え方は私どもからは申し上げられないところではあるが、おっしゃる通り電子化・データ化されていない状態であると思う。図書館も、電子データ化して貸し出しネットワークを構築するのに、多額の費用を投じている。その辺は一朝一夕には難しいのかなと思うところである。
- 〔馬見塚委員〕 図書委員の方が、休み時間に、小さい子たちが借りたい本を書いてあげたりするような事はしていないのか。
- 〔西田委員〕 やっていると思うが、私も細かい部分まではわからないが、書き写す場面があるのだと思う。
- 〔野口委員長〕 バーコードが貼ってあるという事は電算化の途中なのか。市内の図書室ではバーコード貸し出ししているところはあるのか。
- 〔西田委員〕 司書さんには、小田原市内の小中学校は全て手書きで管理していると聞いている。

## ・事務連絡(石塚副館長)

次回の図書館協議会は、7月24日に開催する予定

## 9. 閉会

- 〔野口委員長〕 これをもって、図書館協議会を終了する。